

台湾に行ったわけは、ちょくちょく仕事で来日している台湾・台中市の友人「信ちゃん」から遊びにいと、事あるごとに誘いを受けていたからだ。信ちゃんと日本人みたいな呼び方だが、彼の奥さんは日本語教師で自分の夫を呼ぶ時は名前の一字をとって「信ちゃん」と、日本風に呼んでいる。今回の台中訪問は2014年4月2日から5日までだった。最初の2日間は信ちゃんに高山凍頂茶の産地や、パイナップルケーキの故郷を案内してもらい、夜は客家料理や郷土食をご馳走になった。旅行前に簡単な登山も希望しておいたら、4月4日に山歩きに連れて行ってもらった。

朝の8時過ぎに白い小型の日産車で奥さんを同乗して迎えに来てもらう。前の信ちゃんのクルマは安全性の面から(ぶつけられても壊れにくいらしい)黒のベンツを運転していたが、今では仕事で市中を回るときは駐車場への出し入れや路上駐車のためから、小型車の方がよいということであった。

信ちゃんは若い頃はオートバイ狂、兵役の時はアメリカ製の戦車を操縦していたそうで、運転はうまい。落ち着いたハンドル捌きで、同乗しても安心できる。

一応山歩きの支度をしたが、どこへ連れて行かれるかわからず、地名などは後日調べてわかったことである。助手席に座ってはいたが、台中の市街をどちらの方向に走っているかわからない。信ちゃんの日本語は細かなことはだめで、私の中国語はもっとだめだ。だ

から込み入った内容は、奥さんの「麗ちゃん」が後ろの席から通訳というか、かみ砕いて説明してもらう。

小一時間ほど

進むと、風景は丘陵と緑が多くなった。ほどなく小公園に付随する駐車場に乗り付けた。降りてみるとすぐそばにトイレと「台中市大坑登山歩道風景区」の案内地図があり、付近一帯は「高尾山」のような登山道が整備された自然公園となっている。

トイレ外側の壁面には「小黑蚊」に注意をするようにとの掲示板があった。円盤の中

に指型の針で「危害指数」を指示示すようになっている。現在の指数は「50」の位置だった

が、更新月日は去年の11月13日のままで、現在のことは解

らない。後でネット検索すると小粒ながら猛烈な痒みが出る恐ろしい蚊だということが解った。しか

し今回は蚊の発生時期ではないらしく、見ることもなかった。

今日歩く道は、「頭嵯山二号登山歩道」といい、標高差500mくらいの登山道である。この道の特徴は丸太の階段が続く急登路だと後から解った。路端で野菜を売っているオバサンの前を通るとすぐに登山道の入り口になる。しばらく舗装した小道を歩いてから、山道になった。勾配がきつ

くなると、周囲は小ぶりの照葉樹の林であった。

なおも進むと梯子とも階段ともいえる丸太で組み上げた、長大な「登山栈道」が現れた。行く末は天国へ続くかと思うほど高みへ続いている。横板は直径

見上げる急勾配。階段は途切れることなく続く



小黑蚊注意の掲示板



見上げる急勾配。階段は途切れることなく続く



憩いのひととき。食べ物を持ち寄ってくつろぐ。



くだりもなかなか壮観だ、降りていく信ちゃん。

10cmくらいの堅い丸太で、これを縦杭に渡した長い棧にボルトで地面から浮かして固定してあった。

丸太の階段では歩行が不安定である。だから両手で掴む太い綱が左右の手摺りに架けてあった。これをたぐって歩けば安定する。このような丸太の階段は日本にもある。けれども尾根から頂上まで地面に降りることなく続いているのは見たことがない。登山道管理者は試行錯誤の末、階段式で覆ってしまうのがよいと決めたのだろう。この方式の利点は登山道が荒れない、植生の保護になる、道迷いがいいなどか。ただし雨が降ると丸太の階段は滑るので危険だ。

登り始める。丸太の階段は見た目より登りやすかった。台中では人気の場所なので、これから登る人、降りてくる人が時々行き交う。

日本の山道のように登り優先というわけではなく、みたところ自分優先だ。道を譲らなくもどうにか擦れ違ふことができるので、お互いに背中をこすり合わせて行き違っていた。

信ちゃんの奥さんも途中まで一緒に登ってきたが、山登りは得意分野ではないらしく、ちょっとした小ピ

ークで「最高距離更新」といって、私と信ちゃんが戻るまで休んで待つことになった。

私と信ちゃんはなおも登り続ける。信ちゃんは日本向けの電子部品の工場を経営したことがあった。その工場時代には社員や、同業経営者らと親睦と運動のため、毎週のようにこの「二号登山歩道」を登ったという。だからこの道はすでに50回以上は登ったといった。

信ちゃんが言うには「休まずに登るのがコツ」だそう。で、休み無しで歩き、1時間ちょっとで尾根上に出た。展望を期待したが、下界は霞んではっきりしなかった。

山頂の尾根は、横長に平らで右に曲がれば「頭料山」^{tou ko}が近い。反対側の谷からは細い車道が伸びていて、小型車なら入れるようだ。オートバイで荷揚げした飲み物屋台が店開きしていた。すぐそばで名前を知らない山菜を採っているオバサンがいた。炒めるとおいしいと言った。断るまでもないがすべて信ちゃんの翻訳である。小休止の後「頭料山」^{tou ko}へ向かった。あまり上下がないほとんど水平歩きだ。11時20分頃頭料山(859m)に着いた。展望に変化は無く、すぐに引き返す。

尾根上の道に面してあづま屋や、休息所があり、「獅子亭」とか、「黒松亭」などと優雅な名の看板があった。その中では老若男女の登山者たちが休憩して、至福の時を楽しんでいた。茶器を担ぎ上げて茶芸を楽しんでいる人もいた。信ちゃんと私もあづま屋のベンチで休んだ。私が日本人と解ると片言の日本語で「コンニチワ」などと話しかける人もいた。

下り始めると、景色も見たいが、丸太の下りで、足下から視線を離せない。途中で待っていた信ちゃんの奥さんと一緒になると、難行のような下山は思ったより早く、登山口に戻ってしまった。

そろそろ昼近く、小腹が空いてきたので近所の名物「東東芋圓」という店の山芋の入ったアンミツのようなもの「呷冰冰」をご馳走になった。トッピングを好みで指定できる。安くてうまい。

台中滞在の一コマでした。



「呷冰冰」、上にあるのが芋団子